

2024.7.26

Team Release



小出選手が2勝を挙げ、ランキングトップに浮上

B-Max Racing Team (チーム総代表・SFL チーム代表 組田龍司) は、7月19～21日、富士スピードウェイで行われた全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権第10～12戦に参戦し、小出選手が第10、12戦で優勝を飾り、シリーズ前半を終えてドライバーズランキングでトップに立ちました。荒川選手も2位表彰台に二度上り、今大会においてチームで二度のワンツーフィニッシュを果たしました。

マスタークラスは、参戦2大会目の藤原選手が、FIA-F4 インディペンデントカップチャンピオンの実力を発揮して2連勝。今田選手と DRAGON 選手による2強対決の構図に変化をもたらしました。

■第10、11戦予選 (7月19日 (金) 午後3時50分～4時20分)

金曜日開催という変則スケジュールで行われた予選は、他のサポートレースが走ったあとの路面コンディションを、いかに読むかがポイントとなりました。

小出、荒川、フレデリックの各選手は、調子の上がらなかった練習走行からの悪い流れを断ち切るべく果敢に攻めましたが、小出選手はトップにコマ2～3秒届かず、第10戦の3位が最上位、荒川選手も4位がベストと、望んだ結果を得ることはできませんでした。

セッティングを大幅に変えて臨んだフレデリック選手は、第10戦で1分33秒台を記録した2周回が、ともに走路外走行と判定されてタイム抹消になるなど、歯車が噛み合わないまま予選を終えることになってしまいました。



2024.7.26

Team Release



	ドライバー	Rd10 予選タイム(順位)	Rd11 予選タイム(順位)	Point (累計)
1号車	K.フレデリック	1分42秒317 (12)	1分33秒693 (8)	0 (16)
50号車	小出 峻	1分33秒244 (3)	1分33秒349 (5)	0 (31)
51号車	荒川 麟	1分33秒364 (4)	1分33秒392 (6)	0 (19)

天候：曇り、コース：ドライ、気温：29度、路面温度：41度

■第10戦決勝 (7月20日(土) 午前8時25分～15周)

抜群のスタートを見せた小出選手がフロントローの2台をかわしてトップに立ち、荒川選手も続きました。終盤まで1分34秒台のタイムを刻みながら逃げる小出選手は、タイヤをマネジメントしながら、徐々に荒川選手との差を開き、最後は4.8秒の差をつけて今季3勝目のチェッカーを受けました。荒川選手もベストリザルトとなる2位でフィニッシュし、B-Maxがワンツーフィニッシュを飾りました。

フレデリック選手は、最後尾から1周目に7位に浮上しますが、ペースが上がらず8位でチェッカーを受けました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
1号車	K.フレデリック	8位	1分35秒263 (8/12)	0 (16)
50号車	小出 峻	1位	1分34秒114 (1/12)	10 (41)
51号車	荒川 麟	2位	1分34秒162 (2/12)	7 (26)

天候：曇り、コース：ドライ、気温：28度、路面温度：30度

■第 11 戦決勝 (7 月 20 日 (土) 午後 3 時 10 分～21 周)

3 列目スタートとなる小出選手と荒川選手は、このレースは手堅くポイントを獲得して、フロントロースタートの第 12 戦に繋げることを目標にレースに臨みました。

1 周目にポジションを上げた荒川選手が 4 位、接触でやや遅れた小出選手が 5 位、フレデリック選手は 6 位をキープしてレースは進み、前半は縦に長い展開となりました。9 周目に入ると、フレデリック選手は、後方から追い上げてきた野中選手にかわされ 7 位にポジションを落としてしまいます。

4 位荒川選手の背後に小出選手がつける展開は、レース後半になっても変わりませんでした。後方に迫った野中選手のペースが良かったため、無理に抑えることはせずに、14 周目には小出選手が、17 周目には荒川選手とともにダンロップコーナーで野中選手を前に出し、5 位、6 位でフィニッシュ。着実にポイントを重ねました。

7 位でフィニッシュしたフレデリック選手は、スタート時にグリッドのラインを超えていたとの判定で、プラス 5 秒のペナルティが課され結果は 8 位でした。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
1 号車	K.フレデリック	8 位	1 分 35 秒 309 (6/12)	0 (16)
50 号車	小出 峻	6 位	1 分 35 秒 293 (5/12)	1 (42)
51 号車	荒川 麟	5 位	1 分 35 秒 432 (7/12)	2 (28)

天候：曇り、コース：ドライ、気温：36 度、路面温度：48 度

2024.7.26

Team Release



■第 12 戦決勝 (7 月 21 日 (日) 午前 8 時 20 分～15 周)

早朝のスタートながら、気温 30 度超えと蒸し暑い天候のなか、スタートを迎えました。

小出選手はポールポジションからスタートを決めて、1 周目には早くも 2 位を 1.8 秒離してコントロールラインに戻ってきました。荒川選手はスタート後に順位を 1 つ落としますが、2 周目には挽回し、以降は B-Max のワンツー態勢でレースは進みました。

快走する小出選手は、折り返しの 7 周目には 5 秒のリードを築いて独走状態。後半はタイヤを労りながらペースコントロールして、今シーズン 4 勝目を飾りました。

荒川選手は、終盤追い上げてきた野中選手に攻め立てられますが、冷静に抑えきって 2 位。第 10 戦に続き、今大会二度目の B-Max ワンツーフイニッシュを飾りました。

フレデリック選手は、スタートで 5 位にポジションアップしましたが、スピードに伸びを欠き徐々に後退。最終周にエンジントラブルでコース脇に車を止めました。

今大会でシリーズの前半 9 戦が終了。小出選手は野中選手を逆転してランキングトップとなり、6 点差でシリーズを折り返しました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
1 号車	K.フレデリック	12 位	1 分 35 秒 365 (8/12)	0 (16)
50 号車	小出 峻	1 位	1 分 34 秒 174 (1/12)	10 (52)
51 号車	荒川 麟	2 位	1 分 34 秒 848 (7/12)	7 (35)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：33 度、路面温度：38 度

2024.7.26

Team Release



■1号車ドライバー ケイレン・フレデリック選手コメント

とてもタフな週末でした。木曜日のフリープラクティスから、ペースはあまり良くありませんでした。状況を改善するために、クルマに多くの変更を加えましたが、週末を通してペースは良くないままでした。その理由は概ね分かっていますので、改善されることを願っています。

次の岡山大会に関しては、僕が日本で初めて走ったサーキットですし、大好きなトラックです。これまでもテクニカルトラックでは速さを見せることができているので、自信を持って臨みたいと思います。

■50号車ドライバー 小出 峻選手コメント

練習走行から予選までは、ライバル勢と比べてペースが足りていなかったのも、厳しい週末になるだろうと予想していました。ただ、そういう状況のときこそ、ドライバーが頑張ってチームの士気を上げようと、レース1はスタートに集中して、2列目からトップに立ち優勝することができました。荒川選手も2位に入ってワンツーでしたので、これがチームの雰囲気、そして今週末の悪かった流れを一気に変えたと思っています。

レース3も勝ってランキングもトップに立つことができました。ポイント差は少しですが、この差がシリーズ後半に効いてきますので、非常にポジティブにとらえています。このまま後半も気を抜かずに戦っていけば、自ずと結果はついてくるとと思っています。

■51号車ドライバー 荒川 麟選手コメント

今週末を通してペースが少し足りなかったと思いますが、1レース目に苦手だったスタートも決めて、調子が悪いなりに結果を残すことができました。自分のやるべきことはやったという達成感があります。

次戦以降の出場は未定ですが、今回ペースが良くなかった原因を、最後まで突き止められずに終わってしまいましたので、その原因を分析して、ぜひ再チャレンジしたいと思っています。

マスタークラス

■第 10、11 戦予選

練習走行では、デビュー2 大会目となる藤原選手が、FIA-F4 インディペンデントカップ チャンピオンの実力を如何なく発揮し、4 セッション中、3 セッションでトップタイムをマークしました。

藤原選手が自信を持って臨んだ予選でしたが、第 10 戦は清水選手が最後のアタックで藤原選手を逆転。0.4 秒差をつけて初のクラスポールポジションを獲得しました。第 11 戦は、今田選手が貫禄のトップタイムを叩き出し、藤原選手はまたしても 2 番手タイムに終わり「甘くはないですね」と苦笑いでした。

両予選とも 4 位に沈んでしまった DRAGON 選手は、練習走行で不具合のあったダンパーを交換して予選に臨んだものの、セッティングが決まらず。決勝での巻き返しを期すことになりました。



	ドライバー	Rd10 予選タイム(順位)	Rd11 予選タイム(順位)	Point (累計)
4 号車	今田信宏	1 分 35 秒 912 (M3)	1 分 35 秒 538 (M1)	1 (59)
8 号車	清水康弘	1 分 35 秒 151 (M1)	1 分 35 秒 726 (M3)	1 (22)
13 号車	藤原 誠	1 分 35 秒 536 (M2)	1 分 35 秒 628 (M2)	0 (13)
30 号車	DRAGON	1 分 36 秒 101 (M4)	1 分 35 秒 736 (M4)	0 (48)

2024.7.26

Team Release



■第 10 戦決勝 (15 周)

スタートで好ダッシュを見せた DRAGON 選手が、1 周目に藤原選手を、2 周目に清水選手を抜いてトップに立ちますが、6 周目にペースが上回る藤原選手が再逆転。その後は、藤原選手が、後方で繰り広げられる DRAGON 選手と今田選手の 2 位争いを尻目に、徐々に差を開いて、独走で初のクラス優勝を飾りました。

白熱した 2 位争いは、追い上げてきた清水選手も加わり三つ巴の戦いになりましたが、10 周目に集団のトップに立った今田選手が 13 コーナーで単独スピンを喫して決着。DRAGON 選手が清水選手を振り切って 2 位に入りました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4 号車	今田信宏	M4 位 (総合 12 位)	1 分 35 秒 920 (M1)	3 (62)
8 号車	清水康弘	M3 位 (総合 11 位)	1 分 37 秒 175 (M4)	5 (27)
13 号車	藤原 誠	M1 位 (総合 9 位)	1 分 36 秒 425 (M2)	10 (23)
30 号車	DRAGON	M2 位 (総合 10 位)	1 分 36 秒 582 (M3)	7 (55)

■第 11 戦決勝 (21 周)

今田選手、清水選手がスタートで揃ってエンジンストール。大きく出遅れてしまい、トップ争いは、逃げる藤原選手を DRAGON 選手が追うという展開になりました。

両者ともに 1 分 37 秒台を安定してマークしながら周回を重ねますが、藤原選手のペースが僅かに上回り、4 周目 0.6 秒、8 周目 1.6 秒と、その差は徐々に開いていき、藤原選手が第 10 戦に続く独走で連勝のチェッカーを受けました。

このレースで DRAGON 選手は、全日本 F3 選手権時代から通算出場 200 戦目となり、レース後、シリーズを運営する SFL アソシエーションから特別表彰を受けました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4号車	今田信宏	M3位 (総合 11位)	1分 37秒 113 (M3)	5 (67)
8号車	清水康弘	M4位 (総合 12位)	1分 37秒 678 (M4)	3 (30)
13号車	藤原 誠	M1位 (総合 9位)	1分 36秒 838 (M1)	10 (33)
30号車	DRAGON	M2位 (総合 10位)	1分 36秒 955 (M2)	7 (62)

■第 12 戦決勝 (15 周)

ポールポジションスタートの藤原選手が逃げ、その後方で今田選手、DRAGON 選手が 2 位争いを繰り広げるといふ展開が続きました。途中、スタート直後の接触で遅れた中村選手を間に挟んだこともあって、藤原選手のリードは徐々に広がり、10 周終了時には 3 秒と十分なマージンを築いて、3 連勝は間違いのないと思われました。

しかし、最終ラップの 1 コーナーで「気の緩みとしか思えません」と藤原選手が単独スピン。突如トップを争うことになった DRAGON 選手と今田選手は、最後は並走して同時にゴールラインを横切りますが、1000 分の 1 秒という目視では判断のつかない超僅差で、DRAGON 選手が勝利を手に入れました。

2024.7.26

Team Release



今大会を終えて、大会前は 10 ポイントあった、今田選手と DRAGON 選手のシリーズポイント差は 2 ポイントとなり、シリーズ後半を迎えることになりました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4 号車	今田信宏	M2 位 (総合 9 位)	1 分 36 秒 176 (M2)	7 (74)
8 号車	清水康弘	M3 位 (総合 10 位)	1 分 37 秒 019 (M4)	5 (35)
13 号車	藤原 誠	M4 位 (総合 11 位)	1 分 35 秒 889 (M1)	3 (36)
30 号車	DRAGON	M1 位 (総合 8 位)	1 分 36 秒 184 (M3)	10 (72)

■4号車ドライバー 今田信宏選手コメント

マシンの仕上がりは凄く良かったのですが、予選に関してはいつもとスケジュールが違っていたことで、集中力をうまく高められなかったのかもしれませんが。ポールを取った2回目も自分が速かったというよりは、他のドライバーが伸びなかっただけのような気がします。

レースペースは良かったのですが、過去記憶にもないような単独スピンや、スタートでのエンジンストールなど、ミスが多かったですね。最後の DRAGON 選手との攻防は、最後に差し切ったと思いましたが、僅かに届かなかったですね。

藤原選手、清水選手の台頭でシリーズ後半が楽しみになりましたので、また頑張ります。

2024.7.26

Team Release



■8号車ドライバー 清水康弘選手コメント

今回で3大会目、専有走行から様々なセットアップに取り組みましたが、まだSFL車両の走らせ方の最適解を探し続けています。そんな中、予選で初めてマスタークラスのポールポジションを獲得できたことは大きな前進でした。ただ、決勝は攻めきれずに後退してしまいましたし、スプリントレースへの心構えを含め、引き続き経験値の積み上げが必要な状況です。

早いものでシリーズも折り返しを過ぎましたので、後半戦に向けてさらに調子を上げていきたいです。

■13号車ドライバー 藤原 誠選手コメント

最後のレースは、決勝ペースも非常に良く、後ろが離れてからはペースをコントロールしながら走っていましたが、最後の1コーナーでなぜスピンをしてしまったのか自分でもよく分かりません。気の緩みとしか言いようがないですね。

今週末は練習走行から好調で、予選も2つポールを取れると思っていましたが、1つも取れず、レースも3連勝を目前にしてミスをしてしまい、やはり甘くはないですね。

でも、連勝できたことは大きな自信になりました。次の岡山はそう簡単ではないと思いますが、今回の反省を生かして頑張りたいと思います。

■30号車ドライバー DRAGON 選手コメント

3レース目の優勝は、藤原選手のミスで得たものなので、素直には喜べませんが、タイトルを考えると、今田選手の前でフィニッシュし、かつ優勝できたことは大きかったですね。

藤原選手と清水選手の台頭については、二人とも実績のあるドライバーですので、今回の富士からは激戦になるだろうと想定はしていました。

決勝での駆け引きなどの経験値では、今田選手や僕にまだ分はあると思っていますが、これからはさらに予選が重要になってきます。そこに向けてのクルマづくりが勝負のポイントになると思います。マスタークラスの4台は、データなどを共有せずにやっていますので、後半戦もガチの勝負を楽しみたいと思います。

2024.7.26

Team Release

